



# 農地再生レポート通信



発行：福島県耕作放棄地対策協議会 編集：福島県農村振興課 TEL 024-521-7415 FAX 024-521-7545 E-mail:nosonshinko@pref.fukushima.lg.jp



## 今季のさわやかリフレッシュ



### 農業委員会が実施する「遊休農地の解消と発生防止」の活動・・・



### ～農地パトロール！～



農業委員会では遊休農地の発生防止・解消等を目的に、毎年1回、市町村担当者や農業委員、農地利用最適化推進委員が農地を見回り、前年度に把握した遊休農地が解消されているか、新たに遊休化した農地はないかなど、農地の状況を確認する「農地パトロール」を管内の全ての農地を対象に実施しています。

利用状況調査（毎年8月～9月頃）

調査の結果、遊休農地と判断した場合は、直ちに「利用意向調査書」を農地所有者に発出し、今後の利用について意向調査を行っています。

利用意向調査

#### ●利用意向調査

〔農地所有者に対し、今後の農地利用の意向を調査〕

- ① 自ら耕作
- ② 農地中間管理事業を利用
- ③ 誰かに貸し付けるなど



◎利用意向調査の回答を基に、「農地のあっせん」や「農地利用調整」活動または、農業委員会から農地中間管理機構への通知を行います。



▶ 意向表明から6ヶ月後に、意向表明どおり利用されていない場合は、農地中間管理機構と協議するよう勧告を行います。  
勧告が行われた場合は、固定資産税の課税が強化されます。



なぜこのような調査が必要なのですか？

遊休農地や遊休化した農地を把握し、自ら耕作できない農地については、利用調整を行うことにより担い手に引き継ぎ、農地の有効利用を促進するために行っています。



農地が遊休化すると何か問題があるのですか？

遊休化した農地は、害虫の発生や野生鳥獣のすみかとなったり、不法投棄されたりと、周辺農地や地域にも悪影響を及ぼします。  
農地の荒廃に応じた対策を検討するためにも必要な調査です。



#### ●遊休農地とは？

- 過去1年以上農作物の栽培が行われておらず、かつ、引き続き耕作される見込みがない農地。（今後も農地の維持管理（草刈り、耕起等）や農作物の栽培が行われる見込みがない）
- 農作物の栽培は行われているが、周辺地域の農地と比較して、利用の程度が著しく劣っている農地。



#### ●農地中間管理事業とは？

～農地の所有者と農業の担い手をつないで支援～

「農地中間管理機構」が農地の中間的受け皿として農地を借り受け、できるだけまとまりのある形で農地利用の集積・集約化を目指す担い手に貸し付ける事業です。

平田村農業委員会  
遊休農地解消の活動事例を紹介します

景観作物ヒマワリで遊休農地を解消



活動事例

平田村について

県の南東部にある平田村は、阿武隈高原の山並みを縫うように農地が広がり、畜産業と稲作を中心に野菜の栽培も盛んな地域です。

取組のきっかけ

村の主要作物であった葉タバコ栽培が年々減少し、これらの畑が遊休化していったことにより、主要な道路沿いなどでも景観を阻害する遊休農地が目につくようになるとともに、イノシシの被害などが周辺の優良な農地へも拡大していきました。

そのような中、平成29年に農業委員会として何らかの対策ができないか検討を重ね、遊休農地を再生するために景観作物のヒマワリを植栽し、保安全管理を行いながら担い手と農地をマッチングする取り組みを事業化しました。

解消の取組

小平地区、蓬田地区の遊休農地55aで、平成30年6月から事業を開始。事業における除草や耕耘等再生作業は農業委員が自ラ行い、ヒマワリの植栽も委員総出で行いました。

事業の効果

見事に咲いたヒマワリをみた地域住民からは、感謝や感想のことばが数多く寄せられたことで、農業委員会が地域に密着して自ラ活動することにより、広く地域住民に向けて、取組を啓発していけるとの手応えを感じ、その後も取組を継続してきました。

今年度

事業でヒマワリを植栽していた蓬田地区の20aを令和3年から担い手が借り受けし、ソバの栽培を始めることになり、保全活動が営農再開につながっています。

【平成30年度】

解消前



解消後



【令和3年度】

～今年度のほ場の様子～



R3.8月



●小平地区

事前に、『ラジコン草刈機』※で除草したので作業ははかどりました。



※平成12年に遊休農地の解消を目的に導入。"優良農地復活"に役立っています！

●蓬田地区

①蓬田新田

②北屋敷

平成30年度の取組で採取した『種』は、今年も播種用に使われています。また、「地域おこし協力隊」にも提供し、村での地域活動に活用されていて、8月には、公民館周辺に植栽されたヒマワリが、元気いっぱいに咲いていました。

ソバ栽培予定地

◎看板  
「遊休農地解消モデル事業」

9月初旬 秋ソバの芽が出始めたとのことです。



編集後記

平田村農業委員会に伺った8月3日は、夏真っ盛りの暑い日で、お昼には「道の駅ひらた」で地元のそば粉と季節の野菜を使った“天ざるそば”を美味しくいただきました。期間限定“もものソフトクリーム”も、素材の良さがあっての格別な味わいでした。みんなのオアシス！『あちこちに食べ歩きができる日常に、はやく戻りますように』と願うこの頃です。



※今後「農地再生レインボー通信」の配信を希望される方は、[nosonshinko@pref.fukushima.lg.jp](mailto:nosonshinko@pref.fukushima.lg.jp) までご連絡ください。